

他の一面は然らば斯くの如き惡法を廢止したる後に於て何等なる法律を以て之に代ふべきか。それは所謂普通選舉法なるものに依るの外途なし云ふ積極的理由であります。先づ前年即ち前年の方面より申上げます。

現在の總本位の選法が理論上に於て没理無據のものである云ふことは從來議會に於て幾度も申上げたことですが之に對して昨年の議會に床次首相は納稅本位の根據は所謂恒産ある者恒心あり云ふこと存すこの御意見でした。其通り此種選法の根據を致しましては此以外理論はあまり思ひます。然しなから今日の經濟界の事情に於て改選法に定むるが如き三團位の稅を拂ふ者が果して恒産ありと言ひ得らるゝや其議論の前提其ものが第一の疑問であります。假に之が所謂恒産を測るに適切な尺度であるに致した所で其恒産恒心論其ものが果して精確を旨とすべき法律の根據とすべき價值ありや如何。元來これは昔支那人の申した格言で「我國に於ては反對に」武上は食はねさ餉子云ふことある。即ち餉子でも武上は武士である。それは善い方が悪い方云へば何れの國も同じであらうが、

を何れもに解解惡いことをするものがあつた等の者は金が出来ても悪い心は直らぬ要するに財産の有無は人格の標準とほなりませぬ却つて人格が悪いから金が溜る人格が悪いから金が出来ぬ云ふ反對の事情もあるであります。西洋人はこんな事を言ふて居る。「健全なる精神は健全なる身体に宿る」。論者の如くんば健全なる者即ち健全心ありて選舉權を與ふるにも徵兵検査の時の如く検査をして寸法何寸以上のもの体高何寸以上のものにあらすんば國會議員選舉權を與ふるに不適合である云ふ言はねばならぬ。所謂恒産恒心論はこれと大した區別はありません。元來形勢的の格言を法律の根據にするのが間違つて居る。納稅本位の選舉法なるものは元來そんな理窟で出来たものではない英國初代の沿革的理由云はは偶然的出来事に出來するもので今日に於ては時代錯誤の觀念として排斥すべきものであります。歐米では時代錯誤云ふことに氣が付いて早きは百年然らずとも五十年或は三十年も昔に改めてしまひ今日に於ては其證據たるこの地球が平たい云ふ考へが誤つて居るの大した區別はないので殆んど問題にも何にもならないのであ